第８課　神と契約

【暗唱聖句】

「御覧ください、今日わたしたちは奴隷にされています。先祖に与えられたこの土地、その実りと恵みを楽しむように。与えられたこの土地にあって御覧ください。わたしたちは奴隷にされています」ネヘミヤ記/9章 36節

【日曜日・契約に対する考え】

「わたしたちはここに誓約して、書き留め、わたしたちの高官、レビ人、祭司の捺印を添える」ネヘミヤ10：1

神はイスラエルを特別な民として選び、契約を結んで罪の赦しと永遠の救いを約束してきました。しかし、イスラエルはこの神との契約を自ら破るようなことを繰り返し、ついには奴隷の身となって国を失う羽目になっていました。契約の民として特別な祝福と使命があるのと同時、民族として大きな責任を伴っていたのです。バビロンからエルサレムに帰還し、ついにエルサレムの再建が終了したとき、まず皆で律法の書を読み、民族としての罪を悔い改めた後、彼らは再び神と契約に臨みました。高官、レビ人、祭司が代表して捺印したのですが、そこにいたすべての者が同様に神との契約を結ぶことを望み、その教えを実行することを誓ったのでした。

「そのほかの民、祭司、レビ人、門衛、詠唱者、神殿の使用人、この地の民と関係を断って神の律法のもとに集まったすべての者も、妻、息子、娘、また理解できる年齢に達したすべての者と共に、そのまことに貴い兄弟たちに協力するものであり、神の僕モーセによって授けられた神の律法に従って歩み、わたしたちの主、主の戒めと法と掟をすべて守り、実行することを誓い、確約するものである」ネヘミヤ10：29，30

神の契約とは単なる口約束とは違い、契約違反をしない限り、契約は必ず守られるものです。つまり、救いの確定であり、神の約束です。だから皆が契約を結ぶことを望んだのです。この契約は今やイスラエルだけでなく、神はイエス・キリストを救い主として信じ受け入れる者すべてと結んでくださいます。

【月曜日・歴史上の契約】

神は人間と契約を結ぶことで特別な関係を持つことを望まれました。旧約聖書には7つの大きな契約が書かれてあります。

アダム…お前と女、お前の子孫と女の子孫の間にわたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕きお前は彼のかかとを砕く。」創世記3章 15節

ノア…「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる…二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない。」創世記9章9～11節

アブラハム…「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福し、あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る。」創世記12：1～3

モーセ…「今、もしわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたたちはすべての民の間にあって、わたしの宝となる。世界はすべてわたしのものである。あなたたちは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる」出エジプト記19章 5、6節

ピネハス…「…ピネハスは、わたしがイスラエルの人々に抱く熱情と同じ熱情によって彼らに対するわたしの怒りを去らせた…それゆえ、こう告げるがよい。『見よ、わたしは彼にわたしの平和の契約を授ける。彼と彼に続く子孫は、永遠の祭司職の契約にあずかる』民数記25：11，1

ダビデ…「私はイスラエルの子らをエジプトから導き上った日から今日に至るまで、家に住まず、天幕、すなわち幕屋を住みかとして歩んできた。わたしはイスラエルの子らと常に共に歩んできた」サム下7：6，7

新しい契約…見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない」エレミヤ31：31～34

聖書の中には、永遠の契約という言葉が何度か出てきます。有効期限がなく、私たち自身が契約を破棄するようなことをしないかぎり永遠に続くということです。永遠の福音と同様です。新し契約と古い契約がありますが、決して両者が異なるわけではなく、聖化、和解、宣教、義認など同じ要素が含まれています。

【火曜日・契約の構造】

聖書に記述された神との契約は、当時の一般的な契約の書式に準じて書かれています。前文(神がどのような方か)、②歴史的導入部（過去の神との関係）、③規定・律法、④祝福と呪い、⑤証人（証拠）、⑥特別規定・契約のしるしという順です。申命記の契約やヨシュア記24章の契約もこの流れで書かれてあります。それはイスラエルの人々に理解しやすくするためです。

【水曜日・誓い】

人々は次の4つのことを誓うことで、神との契約を実行していくことを表明しました。①異民族と結婚しないこと。これは偶像礼拝が入り込ませないためです。②安息日を順守すること。安息日に商取引をしないこと。③貧しい人を守り、負債を免除すること。④十一や初物の捧げものなどにより神殿とレビ人の働きを支えることです。これらの誓いを完全に守ることはできませんでしたが、彼らが真剣に神との契約を守っていこうとする姿勢は、未来に良い影響を与えるのでした。

【木曜日・神殿】

「レビ人はその十分の一の更に十分の一を、わたしたちの神殿のためにその収納庫の祭司室に持って行かなければならない。」ネヘミヤ記10：39

イスラエルの人々は経済的に虐げられた小さな集団でしたが、神殿が繁栄するためにわずかな持ち物もささげる必要があると考え、律法が命じていた以上にささげました。さらに特定の家族に祭壇の薪を納めるように割り当て、神殿の日々の働きを助けることにしました。神殿はイスラエルの民の中心でした。神殿が正しく機能しているときは、民の霊的な生活が守られ、活気がありました。神殿が破壊されることでどれほどの悲劇がイスラエルに臨んだのかを痛いほど知っていました。だから、何としても支えなければならないと考えたのです。現代においても、わたしたちが教会を支えるのには同じ理由があるでしょう。